

RIDLS 主催講演会

趣旨

本講演会では、ドイツ・オルデンブルク大学よりハンナ・キーパー教授とヴォルフガング・ミーシュケ博士をお招きし、ドイツで進行している教師教育の動向と授業研究の動向をご報告いただくとともに、その動向に教授学がどのような役割を果たしてきた／果たすのかについてご講演いただきます。

ドイツにおける教師教育の展開と教授学研究の役割、また授業研究の動向とそのための授業計画・分析のあり方についての専門的なご講演に続いて、質疑応答も交えながら、わが国とドイツの現状の交流だけではなくこれからの教師教育や教育学研究のあり方についても議論できればと思います。当日の講演はドイツ語ではありますが、日本語の資料と通訳も介して進行してまいりますので、万障お繰り合わせの上ご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

講師紹介

ハンナ・キーパー教授は8年間の基礎学校および基幹学校での教師経験の後に、ブランシュヴァイク工科大学教授を経て、現在はオルデンブルク大学で学校教育学・一般教授学の教授職にあります。

ヴォルフガング・ミーシュケ博士はオルデンブルク大学にてハンナ・キーパー教授らとともに教育心理学の専門家として教師教育の実践につとめ、また学校づくりのアドバイザーなどもつとめてこられています。

両氏の共著は一般教授学や授業論分野において数多くありますが、なかでも『授業プランニング』（“Unterrichtsplanung” Bertz, 2009）は、ドイツ教授学における伝統的な教授学モデル（陶冶理論・学習理論・コミュニケーション論）を統合した教授学（integrative Didaktik）の理論を背景に、計画理論や学習心理学の知見をベースとしながら、授業のマクロレベル・ミクロレベルでの計画と分析のあり方を提起した教師をみざす学部生・大学院生のためのテキストであるとともに、教師教育に果たすべき教授学のあり方を提起した学術書でもあります。

日時

2015年1月14日(水)9時30分～12時30分

場所

教育学研究科第一会議室

プログラム

9:30-9:35 講演会の趣旨説明

9:35-9:45 講師の紹介(深澤広明)

9:45-10:45 講演① ハンナ・キーパー
「PISA 後の教授学的思考」

“Didaktisches Denken auf der Suche nach einer Position im Spannungsfeld von Transformationsprozessen in Wissenschaft und Bildungspolitik – Einblicke in Entwicklungen in der Bundesrepublik”

10:45-11:00 休憩

11:00-12:00

講演② ヴォルフガング・ミーシュケ
「授業研究と授業分析」

“Unterrichtsforschung – Unterrichtsanalyse”

12:00-12:30 質疑応答・ディスカッション

司会・進行: 吉田成章

※本講演会には通訳がつきます

演題 ドイツにおける教師教育と教授学
主催 広島大学学習システム促進研究センター(RIDLS)
共催 広島大学教育学研究科教育学講座教育方法学研究室

【お問い合わせ】

広島大学大学院教育学研究科教育学講座教育方法学研究室

准教授 吉田成章

E-mail: nariakira@hiroshima-u.ac.jp

Tel: 082 - 424 - 6744 (教育方法学研究室)

